

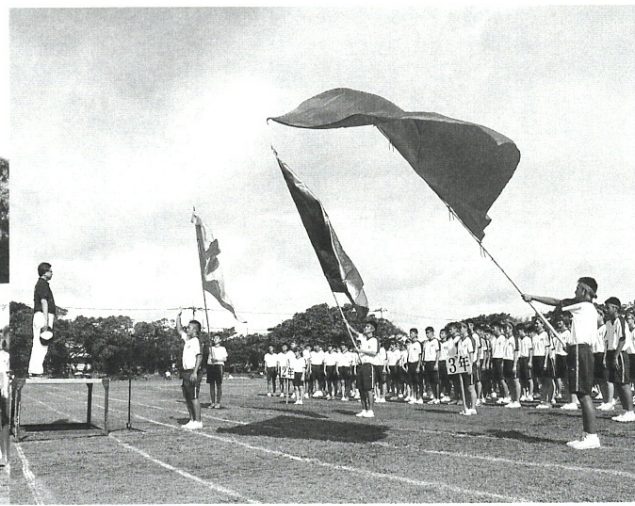
# スマイル ひなた島



TANEGASHIMA  
HIGH SCHOOL

種子島高校  
PTAだより

平成30年度 前期号  
第31号



一生に一度は、本気でやってみなさい。必ず達成する。自分の運命を造りなさい。」ということである。子どもたちは、自分でも未だ気付いていない優れた個性や才能を持つ、ダイヤモンドの原石である。原石は、いろんなことを経験し、自分を鍛え、磨くことで輝きを増す、そんな可能性を秘めている。自分を磨くことは、人としての強さ、優しさ、賢さを育む。そして、周りを明るくし、温かく、元気にする力を生み、自然と人の輪が広がる。そんな人間的な魅力を持つ人になるためにも、この高校生活を、充実させてくれることを願っている。



校長 松山 武史

「西郷どん」と同じ時代を生きた人に、長州の吉田松陰がいる。彼は、門下生に「未見の我を発見せよ」と言っている。「未だ見たことのない自分を目指せ。心は熱く、

過ぎしやすい気温になって参りました。さて、子どもたちにとって高校生活は、社会に羽ばたく前の大切な時期で、身体的にも精神的にも成熟し巣立ちを迎えます。同時に、人生の中で最も多感な時期でもあります。しかしながら世の中は時々刻々変化し、決して子どもたちの成長を待ってくれようとはしません。特に昨今の情報端末の急速な普及に伴う多くの課題もまた看過できない状況にあります。このよ

うな中、子どもたちを社会の一員として責任を果たすことのできる人間性豊かな人として育てるためにはやはり学校、家庭、そして地域の連携・協働が必要です。そしてその三者を結びつけるPTAの役割が大切です。皆様の引き続きのご理解ご協力宜しく



PTA会長 田中 恭二

日頃よりPTA活動へのご理解ご協力ありがとうございます。昨年度に引き続きですが、どうぞ宜しくお願いします。台風発生の多い暑い夏が過ぎ、やっと朝晩少しは

## つつぽう百合

以前「こどもに押しつけてはダメなこと」というコラムを読んだことがあります。その中で、子育ての指針として大事にしたいことを二つ挙げられました。

一つ目は、「褒めると認めるは違う」ということです。褒めると言うことは結果に対しての言葉掛け。認めるというのは経過に対しての言葉掛けです。普段我々は忙しくてどうしても認めるというところが向いてないことのほうが多いのではないのでしょうか。

二つ目は「縦ではなく横からのサポート」ということです。我々はいついつい上から下に「こうしなさい、あれもしなさい」と口を出してしまふことが多くがちです。上からの力(指示)は、子どもに自分の目標ではなく、我々の親の目標に向かい反抗心を育ててしまいがちです。子どもも心理・目線に立って「こうしてみたら、これはしてみたくない？」などの横からのサポートへとシフトチェンジしてみてもどうでしょうか。当たり前のことなのですが、普段の生活の中で見失いがちなことなので気をつけたいですね。

生徒指導部 小川 崇

# 体育祭

青組応援団長  
電気科 三年 小倉 裕一

応援団長として体育祭に臨んだのは、今年で三度目でした。二年間勝てず「今年こそは」と意気込んで手を上げた団長でしたが、三年連続というこどももあり、優勝に対するプレッシャーは今まで以上でした。三年の夏は進路決定の時期でもあり、なかなか全員がそろわず、演舞を覚えられない焦りのためか練習に参加しない団員もいました。私が団長として何もできないからだと思いついて、落ち込んだ時期もありました。そんなとき、私を支えてくれたのは応援団の担当の先生方や団員のみんなでした。どんなときも私を「団長、団長」と頼りにしてくれるみんなは、



大きな支えでした。支えてくれるみんなを、今度は私が支えたいと思ひ、団員が練習に参加しやすい環境作りを心がけました。ついてこられない団員には、みんなで声を掛けてみんまで支えました。それから練習にやりがいを感じるようになりました。雰囲気もよくなりました。全員そろつての練習日が増え、団員一丸となつて二年間達成できなかった優勝に向けて努力しました。それに応えてくれるように、学年全体も、声で応援団を盛り上げ支えてくれました。

## 心の中にある「てるてる坊主」

広報部 演添 敏朗

自分自身と、三人の子どもたちが卒業した種子島高校。そして末子の最後の体育祭ということで、これまでは保護者テントでの観覧でしたが、今年からは早く出かけ武道館横の土手から見ることになりました。三十数年前に見ていた景色と何ら変わることのない懐かしい風景でしたが「これで最後



の体育祭か」と思うと感慨深いものがこみ上げてきました。併せて、これまで夏休みも返上して練習に明け暮れた子どもたちのことを思うときに、いいグラウンドの状態で実施できたらしいなあとという思いもありました。子どもたちがまだ小さいころ、体育祭前夜には、それぞれぶら下げて作る縁側がありました。今は見る光景がありました。今は見ることがなくなりましたが、きつと心の中では爽やかな秋晴れを願っていたことでしょう。しかし、念願空しく当日は悪天候でした。降りしきる雨の中、思うように走れない子どもたち。三年生最後のフォークダンス。そして力のこもった応援団の演舞。百パーセントは披露できなかったかもしれませんが、私たちはすべてに感動をいただきました。

## ミニバレー大会

六月九日、第十三回PTAミニバレー大会が市民体育館で開催されました。各パート三チームに別れて予選を行い、予選一位のチームによる決勝トーナメントが行われました。熱戦が繰り広げられ、好プレーが続出する中、最後までつれた試合を制した生物生産科二年が見事優勝しました。



保体部 徳永 祐一郎

また、夜はホテルニュー種子島に場所を移し、本命の懇親会が行われました。多くの先生方や保護者の皆様にご参加いただき、有意義な時間を過ごすことができました。参加いただいた方々や運営に協力いただきました役員の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に、めぐり合わせとはいえ、来年卒業予定の末子のときのPTA新聞に寄稿できたことに感謝致します。



写真提供 広報部 住岡 重寛

# 部活動で頑張っている我が子へ

昨年八月に新チームとなり、甲子園出場を目標に毎日練習に汗を流している種子島野球部。新チームとして挑んだ秋の県大会、まさかの初戦敗退。悔しさを胸に練習に励み、迎えた春の県大会において、ベスト16。この結果により、夏の前哨戦となる第六十回NHK旗争奪鹿児島県選抜高校野球大会に県内二十校の出場校に選ばれました。九年ぶり七回目の出場。出場決定を聞いた時は、部員たちはもちろん親も素直に喜びました。大会まで残り一カ月あまり、部員たちは、五月

二十六日に開幕される本大会に向けて毎日の練習、自主練習に頑張っています。毎日遅くまで頑張っている我が子に、親も全力でサポートしていきます。たくさんの人たちに支えられ応援されていることを忘れずに最後まで諦めず頑張ってもらいたいです。

一戦必勝。頑張れ種子島高ナイン

種子島高校野球部保護者会 会長 美坂浩幸

## 普通科3年予備校体験学習を終えて

広報部 小幡 千春

高校生活も早三年目。受験はもう少し先の事のように考えていました。幼い頃からの夢を叶える思いで普通科へ入学しました。朝補習、放課後の部活動と両立が難しく、体的に追いつかない毎日。更に、家庭学習が定着しない状況です。それでも二年生では、大学受験を視野に一組文系を選択しました。足早に二

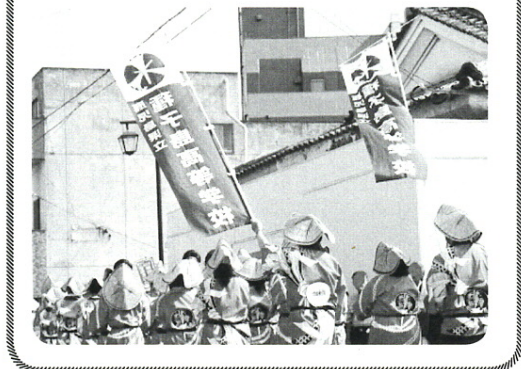
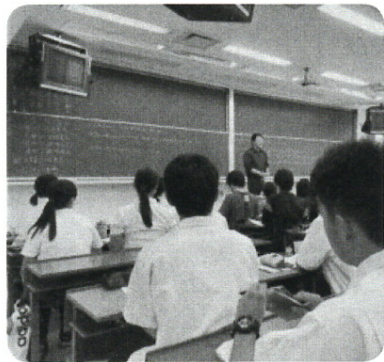
年が過ぎ、いよいよ受験生。現実味を帯びてきたものの、これまでと何も変わることはない生活態度に苛立ち、口論となつては反省する毎日でした。そんな中、予備校体験学習の話がありました。参加することに本人はしぶしぶでしたが、二日間、目標に向かつて頑張る方々と共に、苦手な教科も必死に学んできたよう

です。家に戻ってから勉強に熱が入り、ようやく走り出しました。この貴重な体験に感謝します。受験までの限られた時間を、全力で頑張りたいと思います。そして私達家族も、精一杯サポートしていきたいと思えます。

## 「鉄砲祭りに参加して」

総務部 延時 ゆかり

台風十八号が接近する中、八月十九日、先生方、保護者、元気な生徒たちと鉄砲祭に参加することができました。第四十九回という歴史と伝統ある行事に参加する機会を与えてくださり、感謝しております。御協力いただいた皆様、ありがとうございました。



## 料理講習会に参加して

広報部 上江洲 功子

七月二十日(金)調理室にて、家庭クラブによる種子島の牛乳と卵を使ったアイスクリーム作りがありました。

### 作り方

- 材料
- 牛乳.....50ml
  - 生クリーム.....50ml
  - 砂糖.....大さじ3
  - 卵(種子高産).....1/2個
  - バニラエッセンス.....2~3滴

- ① ボウルに牛乳・生クリーム・砂糖をいれ、砂糖が溶けるまで泡立て器で静かに混ぜる。
- ② ①に溶いた卵を加えてかき混ぜ、バニラエッセンスを加えてさらに混ぜる。
- ③ よく混ぜたらジップパーつき袋にいれ、塩を入れた氷水で袋のまわりを冷やしながら、袋をよく振る。
- ④ 固まったら、器に盛って完成。



なかなか固まらず苦戦する姿もみられました。ここは家庭クラブの先輩が、氷を足したり塩を足したり、袋をひたすら振ってくれたりお手伝いしてくれ、無事においしいアイスクリームが完成しました。意外と簡単にできるので、ぜひ皆さんも作ってみてください。

# 第六十八回全国高等学校PTA連合会大会 佐賀大会

副会長 砂坂 きよみ

八月二十日～二十一日にかけて、佐賀県佐賀市で開催されました。メインテーマは「広めよう高めよう 慈しむ心」を掲げ、いろいろな催しが行われました。特に今回は会場が佐賀市だけではなく、唐津市・鳥栖市・嬉野市と広域に分かれて開催され、会場ごとにアトラクションや記念講演も行われたため、内容が盛りだくさんでした。

基調講演では、レモンさん（山本シユウさん）が「レモンさんのビタミントーク！ 慈しみの愛言葉！ We are シンセキ！」という演題で話をされました。レモンのかぶり物をしながら、子育てやPTA活動での悩みを解決するヒントを、エネルギーシユに話してくださいました。昭和時代の私たちが意識を変えていくべき！と熱く語られたの

が印象的で、とても楽しく興味深く聞くことができました。また記念講演は谷田氏の「日本を健康にするタニタの挑戦」という演題で、「健康をはかる」から「健康をつくる」というさまざまなサービスを展開していく過程を聞きました。分科会では、「AIとともに歩む未来」というテーマで、基調講演とパネルディスカッションがありました。AIの



〈基調講演〉

専門家による講演は、専門語も多く難しかったのですが、これからの私たちの生活にAIがより深く関わってくると感じました。

催されました。生徒は一学期の反省や今後の目標などを発表し、先生方からは夏休みの過ごし方や各学年ごとの学習の取り組みの重要性などの話をしていただきました。その後の懇親会では、先生方もじっくり話し合い、有意義な時間を過ごせたと思います。今後も学校と地域との連携をとり、子どもたちのよりよい学校生活のサポートをしていきたいと思えます。

## 九州地区高等学校PTA連合会大会に参加して

PTA副会長 塩崎 光治

六月に沖縄で開催された、第六十二回九州地区高等学校PTA連合会大会、結沖縄大会に参加させていただきました。【絆！ 呼び起こそう ゆいまるの心 ～未来を担う子ども達のために～】という開催テーマのもと、沖縄に伝えられている「ゆいまる」という精神文化（いい時でも悪い時でもお互いに助け合う「お互い様」という心持ちの大切さ）を伝えていきたいというところで、三つの分科会による事例発表やパネルディスカッションが行われました。第一分科会では青少年の健全育成とPTA活動について、第二分科会では進路指導とPTA活動について、第三分科会では地域の将来を担う子ども

私たちの育成とPTA活動について、それぞれの分科会で九州各地域においての様々なPTA活動事例等が発表され、活発な意見交換ができました。記念講演では、日本こどもみらい支援機構代表でもある武藤杜夫氏による、自らも非行の経歴を持ちながらも、ある日教育に目覚め独学で勉強し法務省に採用され、沖縄少年院の法務教官として活躍した経歴の中から「なぜ、少年院で人生が変わるのか？」という演題でとても興味深い講演を聞くことができました。本校においてもこれから様々なPTA活動が予定されていますが、学校・地域・保護者の皆さんとともに楽しみながら有意義なPTA活動を行っていき、子供たちの健全育成につなげていければと思います。引き続き今後も皆さんの御理解・御協力をよろしくお願いいたします。

## 地区PTA



### 国上・伊関地区

国上・伊関地区PTAでは、まず生徒より一学期の反省と今後の目標の話し合いと、代表者による発表がありました。小学生の頃から見ている子どもたちなので、大きくなり、とても頼もしく感じました。保護者からは、バイク通学時

### 上西地区

の安全運転の話がありました。その後懇親会も開かれ、先生方や保護者、生徒全員で楽しい時間を過ごすことができました。

七月二日（月）十九時より中西公民館で開催されました。生徒に一学期の反省とこれからの抱負を発表してもらい、一・二年生は「勉強と部活動の両立ができるようにしたい」、三年生は「進路に向けて頑張りたい」という意見が出ました。先生方からは生徒指導・進路指導の話があり親子で共通認識を持つことができました。これからの生活に生かしていきたいと思えます。

### 住吉地区

六月三十日（土）、住吉漁民センターにて地区PTAが開



## 編集後記

三十一号も広報部の役員はじめ、原稿をご執筆いただいた皆さまのおかげで無事に発行することができました。ありがとうございました。今後とも多くのアイデアをいただきながら活気あるPTA活動を伝える新聞を目指したいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。お願い致します。